



第10編
教育文化

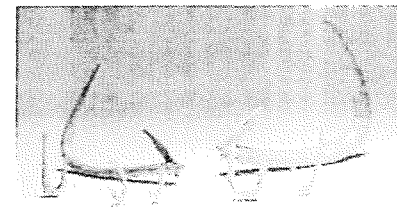
第2章 社会教育

第1節 入江・高砂貝塚の世界遺産登録

集落の立地と生業の関係

遺跡は内浦湾沿岸から300mほど内陸の、標高約20メートルの段丘上に位置する。段丘の東側を流れる板谷川の周辺は、温暖期には入江になっていたと考えられ、そのころから段丘上に人々が住み始めた。そしてステージIIIaのころになると、寒冷化により海が遠のき、川の周辺に砂が堆積して陸地となった。沿岸部には砂丘が発達し、遺跡のある段丘の下から海底にかけて砂地が広がっていた。

海洋環境は現在とほぼ同じで、ヒラメやカレイの漁が行われていた。これらは今も地域を代表する水産資源である。貝塚からは、シカの骨などを加工して作られた、骨角製の漁労具および装身具が数多く出土している。軸と針先を組み合わせて使う大型の釣り針も見つかっており、巨大なカレイの仲間・オヒョウの漁に使用されていたと考えられる。もっとも特徴的なのは、イルカやクジラなど海獣類の骨が大変多いことである。そのため、貝類が中心の貝塚より黒っぽく見えることから「黒い貝塚」と呼ばれている。

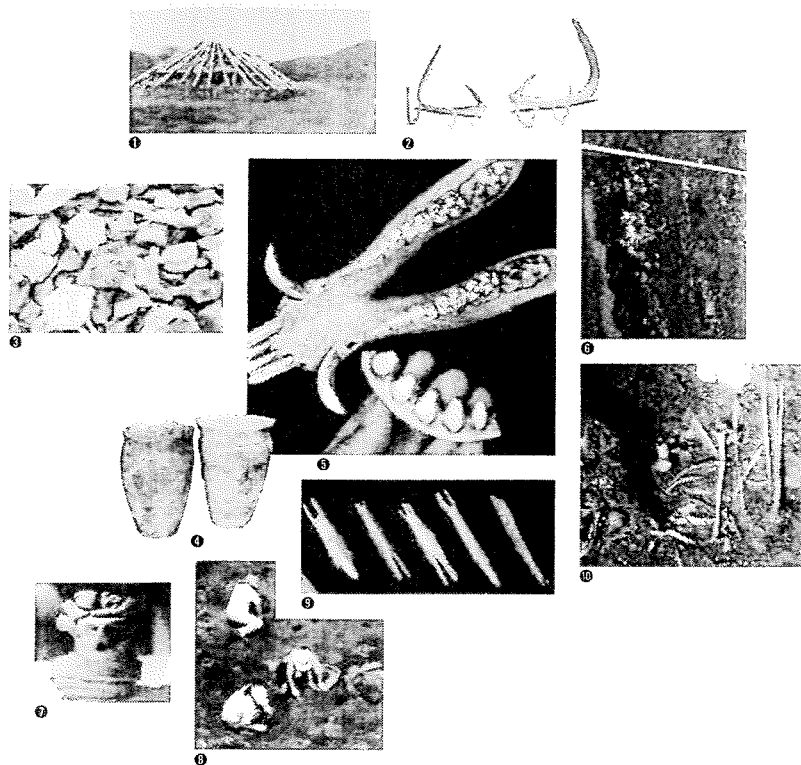


□□□□□□□□■□□□□□□□■□□□□□□
□□□■□□□□□□□□■□□□□□

入江貝塚の発見

入江貝塚は、住宅地に囲まれた場所に位置している。現在は洞爺湖町であるが、もともと虻田という名の土地で、アイヌ語で「釣り針を作る川」の意味の「アブタベツ」が由来とされている。この地には約7000年前から人々が定住し、集落が作られてきた。遺跡内ではアイヌ文化の墓も見つかっている。アイヌ文化では、少し離れたところに周辺地域の中心集落「アブタコタン（村）」があり、16世紀には松前藩によって交易の拠点「アブタ場所」が置かれていた。

第二次世界対戦中は、遺跡の場所に海軍の接待施設が建てられていた。高台で眺めがよく、海が見渡せたためと思われる。入江貝塚が発見されたきっかけは、この海軍の施設で、1942（昭和17）年、施設への道を整備する際に貝塚が見つかり、後年、伊達市北黄金貝



9/30 ■国土庁7月1日現在基準地価公表。東京都23区内では商業地が40%、高級住宅地を抱える世田谷、目黒区では投機的な取引も手伝って平均60%以上の異常な高騰。全国地価上昇率ベスト10では2~10位までが世田谷区で、住宅地が商業地にかわって上位を占めたのは調査開始以来初。上昇率1位の田園調布では97%の上昇で10位の世田谷区赤堤で93.5%と2倍近く、過去最高の54.5%（1985年）を軽く超えた。外資系企業進出などで不足となっているオフィスの需要のため、神田、浜松町などで

塚の発見で知られる伊達高校の教師・峰山巖と生徒たちが発掘調査を行った。長く発見されなかったのは、1663(寛文3)年の有珠山噴火⁽¹⁾による火山灰が遺跡の上に厚く積もり、バックされた状態だったからである。上に建物が建てられても壊れることなく、入江貝塚のある場所が縄文文化からアイヌ文化、そして現代までずっと利用され続けてきたことがわかった。

戦後は住宅地や畑地になったのち、1988(昭和63)年に史跡公園として整備された。特急が停車するJR洞爺駅から徒歩約15分と利便性がよく、約400m離れたところにある高砂貝塚とともに、気軽に訪れることができる数少ない世界遺産の遺跡である。これも、人々の暮らしが同じ場所で続いているからこそと言える。



□□□□□□□□■□□□□□□□■□

共同墓地としての高砂貝塚

高砂貝塚は、内浦湾を望む低地に立地する、貝塚をともなう共同墓地だった。墓域は土坑墓と配石遺構で構成されている。土坑墓からは、抜歯の痕跡が認められる人骨や、胎児骨をともなう妊産婦の墓が確認されている。配石遺構からは、土偶や土製品などが出土し、当時の葬送や祖先崇拜などを示している。貝塚からはタマキビ、ホタテ、アサリなどの貝類に、ニシン、カレイ、マグロなどの魚類のほか、シカ角製の銚頭もりがしらなど漁労具も多数出土している。沿岸地域における漁労が中心の生業と、祭祀・儀礼のあり方を伝える重要な遺跡である。

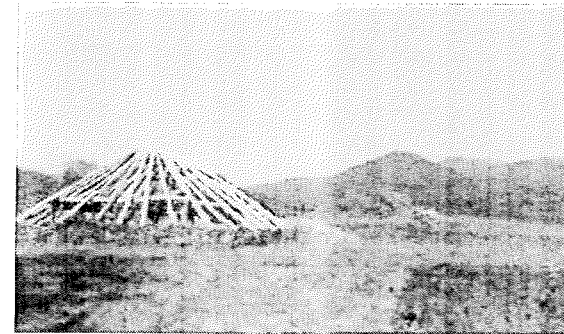
内浦湾に面した平地にあり、背後には落葉広葉樹の森が広がっていた。貝塚からは、とくにカレイやヒラメが多く出土することから、周辺には砂浜と砂地の海底が発達していた

註

* (1) 寛文3年(1663年)、有珠山では旧暦7月11日に地震が頻発し始め、14日早朝から噴火がおこった。この噴火による堆積物(Us-b1~b6火山灰)は層厚が山麓で1~3m、山腹で数十mに達し、小有珠溶岩円頂丘(フシコヌブリ、古山の意)が生じたと思われる。

ことを示している。

定住成熟期後半、冷涼な気候による集落の小規模化が継続していた。土坑墓と配石遺構からなる共同墓地が集落から独立して作られ、土坑墓の土偶や土器などの副葬品からは墓前祭祀が行われたことがわかる。



□□□□□□□□■□□□□□□□■□

前ステージ(Ⅲa)から一時的な寒冷化が続き、小規模化・分散化した集落間の結びつきを強めるための共同墓地が作られ、葬送に関する儀礼が特化し独立した。このあと2400年前頃に、北東北では水稲農耕が始まり、北海道では縄文文化へと移り変わって、縄文文化は終焉を迎えた。

Column ①

南から来た貝のアクセサリー

入江貝塚から出土した。南からの交易品として、千葉・房総半島を生息の北限とするイモガイや、伊豆諸島産と思われるオオツタノハガイで作られた、腕輪やネックレスなどのアクセサリーが見つかっている。オオツタノハガイの製品は国内最北での出土である。

